



明白寺

瑞浪市内唯一の黄檗宗寺院
前身の明白庵は永禄年間に
武田氏によって焼かれる。
延宝3年(1675)江州正宗寺の
梅嶺の法弟の雲峰元沖が再建
明白寺として開山。現在の本堂
は天明5年(1785)に建立、黄檗
宗の建築様式残している。



田中泥薬師

村人は武田信玄の影響を受け
天台宗教により薬師如来を信仰
するようになる。
信長の命で東濃に進出した森長可
の焼討ちから逃れるために薬師如
来像を地中に埋め、世の平和を見
定め地中から取り出し祀ったとい
う。病の箇所泥を塗ると治ると言
う。



八幡神社(土岐氏居館跡)

土岐氏は美濃源氏の主流で清和天皇の孫経基王
が美濃守となり満仲、頼光、國房・・・と続く鎌倉時代
源頼朝に仕え美濃国守護となった光衡は土岐姓を
名乗り、この地に一日市場に居を構え勢力を伸ばし
鎌倉幕府と共に栄えた。
その子光行は承久の乱(1221)で朝廷側に付き破れ
居館を浅野館(肥田浅野笠神町)移した。
頼貞は土岐川対岸の大富館(泉大島町)に移った。
日野資朝から後醍醐天皇の倒幕の密勅を聞いた
のはこの館。十男頼兼を名代に、多治見國長を副将
に京に派遣するが憤死。(正中の変)
建武の中興(1334)以降足利尊氏に付き室町幕府
成立後美濃国守護を任じられる。



清来寺(岩屋不動尊)

観応2年(1351)の記録が残る
土岐氏の守護寺であった天徳院
土岐氏が岐阜に移った以降荒廃
永徳年間にここ岩屋に移り清来寺
となる。

国定忠治の碑

天保9年木曾路を江州へ逃れる途中
この地で善行を施したのを記念に建
てたという。

鶴ヶ城(神籠城、土岐城とも)

築城は鎌倉時代初期、年代不詳
その後光行、光定、頼貞と代々
土岐氏の居城、頼遠が岐阜の長森
城に移った後土岐一族が守る。
戦国期は武田に対する織田の前哨
地。慶長年間には岩村城の出城。



頼兼の自刃塚

”正中の変”で憤死した頼兼の墓
首を持ち帰った家臣根竹十郎の墓



”いざさらば 雪見にころぶ
ところまで”芭蕉

馬頭観音
境界に2体
土岐町、釜戸町

土岐頼兼墓
(自刃塚)
墓案内板
田んぼ畦道400m

白狐温泉

芭蕉句碑

稲荷神社

津島神社神札

名滝

諏訪神社

城址石柱

鶴ヶ城址

大黒天像

馬頭観音
左の細道上がって
すぐ下る

土岐宿

神籠村本郷鶴城はこのあたり
中世の土岐郡駅家ここという。
街村は上町、中町、下町から
なり旅籠、木綿屋、茶屋が軒
を並べていたという。

桜堂薬師

(瑞桜山法明寺薬師堂)

弘仁3年(812)三諦上人の開基
当時は比叡、高野と並ぶ日本三山の
一つと云われる。嵯峨天皇の勅願寺
となり七堂伽藍建立、24坊が建ち並ぶ
元亀2年(1571)信長の命で森長可が
焼く。寛文7年(1667)美相院賢秀の時
岩村城主丹羽式部少輔氏澄公再建。
本尊(聖観音菩薩)、日光、月光像は平安
時代作。十六善神は鎌倉時代作など
重要文化財多数。

神籠村枝郷
清水の鎮守

八幡神社

清水の弘法堂

明治天皇
御小休所跡

八幡神社

土岐頼貞墓

瑞浪駅

一日市場

神籠村枝郷の一つ
下街道の休泊所
として街村を形成
していた

市原

墓は土岐氏の菩提寺のあった
光善寺の跡にある。
墓は道路によって東西に分かれる
西側の頼貞の銘のある宝篋印塔
頼貞は頼遠に跡を譲り、暦応2年
(1339)69歳で逝く。



戸狩荒神塚古墳

直径60m、高さ8mの円墳
中期の竪穴式と推定される。
このあたりには露出した凝灰岩
利用した横穴式古墳が多数ある。